# 「通いの場」におけるリハビリテーション専門職との連携に関する保健師の現状と課題

# Current Status and Challenges of Public Health Nurses' Collaboration with Rehabilitation Professionals in Community Gathering Places for Older Adults

田口友美
Tomomi　TAGUCHI
佐賀大学医学部看護学科 / 立命館大学人間科学研究科
Department of Nursing, Faculty of Medicine, Saga University
/ Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University
Key words:通いの場,保健師,地域リハビリテーション

## 目的

我が国では、高齢化の進展に伴い地域包括ケアシステムの構築が進められ、住民主体の「通いの場」を通じた介護予防の充実が図られている。2040 年までに「通いの場」への参加率を 15%とすることが目標として示されており、保健師には参加の促進と活動の継続支援が求められている。通いの場の支援の１つとして「地域リハビリテーション活動支援事業」によるリハビリテーション専門職（以下、リハ職）の関与が進められている。そのため、保健師にはリハ職との連携が求められているが、関与するリハ職の多くは病院等に所属する専門職であり、保健師がリハ職とどのように連携し、どのような課題を認識しているのかは十分に明らかになっていない。そこで「通いの場」の支援に携わる保健師のリハ職との連携における現状と課題を明らかにすることを目的とした。

## 方法

A 県で「通いの場」の支援に携わる保健師７名を対象に半構造化面接を実施した。調査内容は、「通いの場」における保健師の実践内容、リハ職との連携の実態、連携上の困難や課題、今後の連携に対する展望等とした。面接内容は逐語録に起こし、コード化し質的帰納的に分析した。尚、所属機関倫理審査委員会の承認を得て実施した。

## 結果

逐語録から 136 の意味単位を抽出し、質的帰納的に分析した結果、19 サブカテゴリー、７カテゴリーが生成された（カテゴリーを〔 〕で示す）。

保健師は、住民の意向を取り入れながら通いの場の立ち上げ支援時のリハ職の派遣調整など〔地域とリハ職をつなぐ調整者として通いの場を支える〕役割を担っていた。また、保健師は、リハ職による体力測定や身体機能の評価、個々への評価結果のフィードバックなどを通して、〔リハ職の専門性を生かした実践者〕としての役割を認識していた。

保健師はリハ職の専門性を実感する一方、〔自らも代替できる境界のあいまいさ〕を感じていた。また、こうした協働は、日頃の連携や情報共有など〔日常的な関係性構築による連携〕に支えられていた。

一方、リハ職の派遣の形態が異なり、業務過多や予算の制約、依頼可能な職種・内容の情報不足など〔体制・予算・組織の制約による連携の困難さ〕がみられた。また、人事異動や担当者の交代、組織内の認識の違いによる〔担当者の交代に伴う連携と実践の継続への課題〕が語られた。さらに、住民の担い手不足や活動のマンネリ化に対し、住民の主体性を尊重しつつ専門的支援を継続するため、役割分担の明示、依頼先の見える化、日頃の交流、評価や引継ぎの仕組みづくりなど〔住民主体の活動継続と支援体制の課題〕が示された。

## 考察

保健師は地域住民とリハ職をつなぐ調整役を担い、リハ職の専門性を活用しながら「通いの場」を支援していた。一方、両職種が担う役割には曖昧さもあり、専門性を生かした役割分担の明確化が必要と考えられる。また、連携は日常的な関係性に支えられているものの、予算や人員配置、担当者の異動などに左右され、継続的な支援に課題があることが示唆された。今後は、個人の関係性に依存しない連携体制の構築に向けて、専門性を生かした役割の明確化、依頼のシステム化、情報共有や引継ぎの仕組みづくりが必要である。さらに、住民の主体性を尊重しながら、活動の継続を支える専門職の関与と事業評価を含めた組織的な支援体制の整備が求められる。

## 参考文献

(1) 厚生労働省（2024）「高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン第３版」
(2) 日本能率協会総合研究所（2017）. 地域づくりによる介護予防を推進するための手引き，5-6.